



富岡製糸場総合研究センターだより

No. 21

(2022年11月発行)

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

さんしゅせいぞうじょ 蚕種製造所の跡

富岡製糸場は、操業当初からの生糸生産や生活環境に関わる建物が現在も状態よく残っていますが、老朽化等の理由から取り壊されてしまった建物もあります。

そのうちの1つが、^{はらごうめいがいしゃ}原合名会社経営時代の1908（明治41）年に富岡製糸場の隣接地を拡張して建設された蚕種製造所です。ここでは当時、主要な生糸の輸出先であったアメリカが求める高品質生糸の大量生産を実現、生糸の原料である優良な繭、蚕種（カイコガの卵）の確保を行うための研究も行われていました。イタリアやフランスから優良蚕種を直輸入し、これらの飼育研究に取り組みました。

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産である^{たじまやへい}田島弥平^{きゅうたく たかやましゃあと}旧宅や高山社跡は、富岡製糸場で飼育に成功した蚕の外国種・優良種の試験飼育や農家への飼育指導等を行いました。荒船風穴では、研究で開発された試験飼育用の蚕種を預かる等の協力を行い、4つの資産が連携して蚕の優良品種の普及を実現しました。

このように富岡製糸場では生糸を製造するだけでなく、関連資産と協力し、より質の高い繭が生産できる品種の研究も行いました。改良された蚕種は養蚕組合や養蚕農家へ無料で配布され、できた繭を富岡製糸場で買い取ることで、原料繭の統一を図りました。

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

バックナンバー
はこちらから▼

